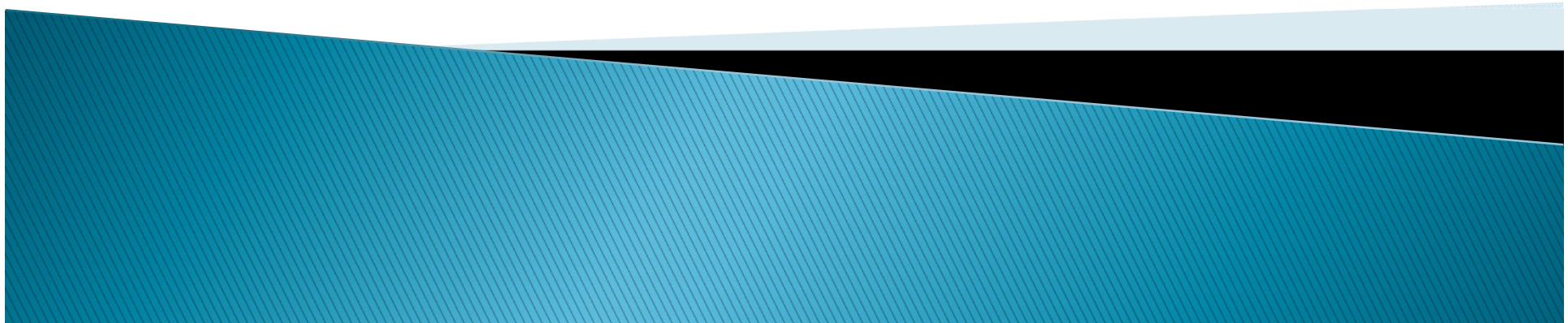


公共事業に係る効果等について

地方港湾改修事業

星賀港 星賀地区・行田山地区

(港湾課)



# ○背景と目的

## ○事業背景

- 星賀港内の利用船舶隻数の増加や船舶の大型化により、大型貨物船と漁船との輻輳が生じ、航行安全に大きな支障を来していた。
- 台風や発達した低気圧の高波により港口からの侵入波により港内静穏性が確保されておらず、異常波浪時の船舶航行や係留作業に危険が生じていた。
- 向島離島航路発着所と連絡する臨港道路が無く、物揚場のエプロン敷を道路兼用として利用し、しかも民家密集地を通るという悪条件であり、沿線住民と港利用者の輻輳が生じていた。

## ○事業目的

- 大型貨物船と漁船の輻輳を解消し、航行安全性の向上を図るため大型貨物船の休憩岸壁を整備。
- 港内の静穏を確保し、船舶の航行及び係留作業等の安全性、効率性の向上を図るため、防波堤を整備。
- 臨港道路を整備することにより、星賀港利用車両の交通の円滑化と生活道路の生活環境の改善を図る

## ○事業概要

○事業名 地方港湾改修事業

○箇所名 星賀港 星賀地区・行田山地区

○所在地 唐津市肥前町

○工期 平成3年度～平成22年度

○総事業費 約33億円

○事業内容

・岸壁 (−5.5m)  $L = 140\text{m}$

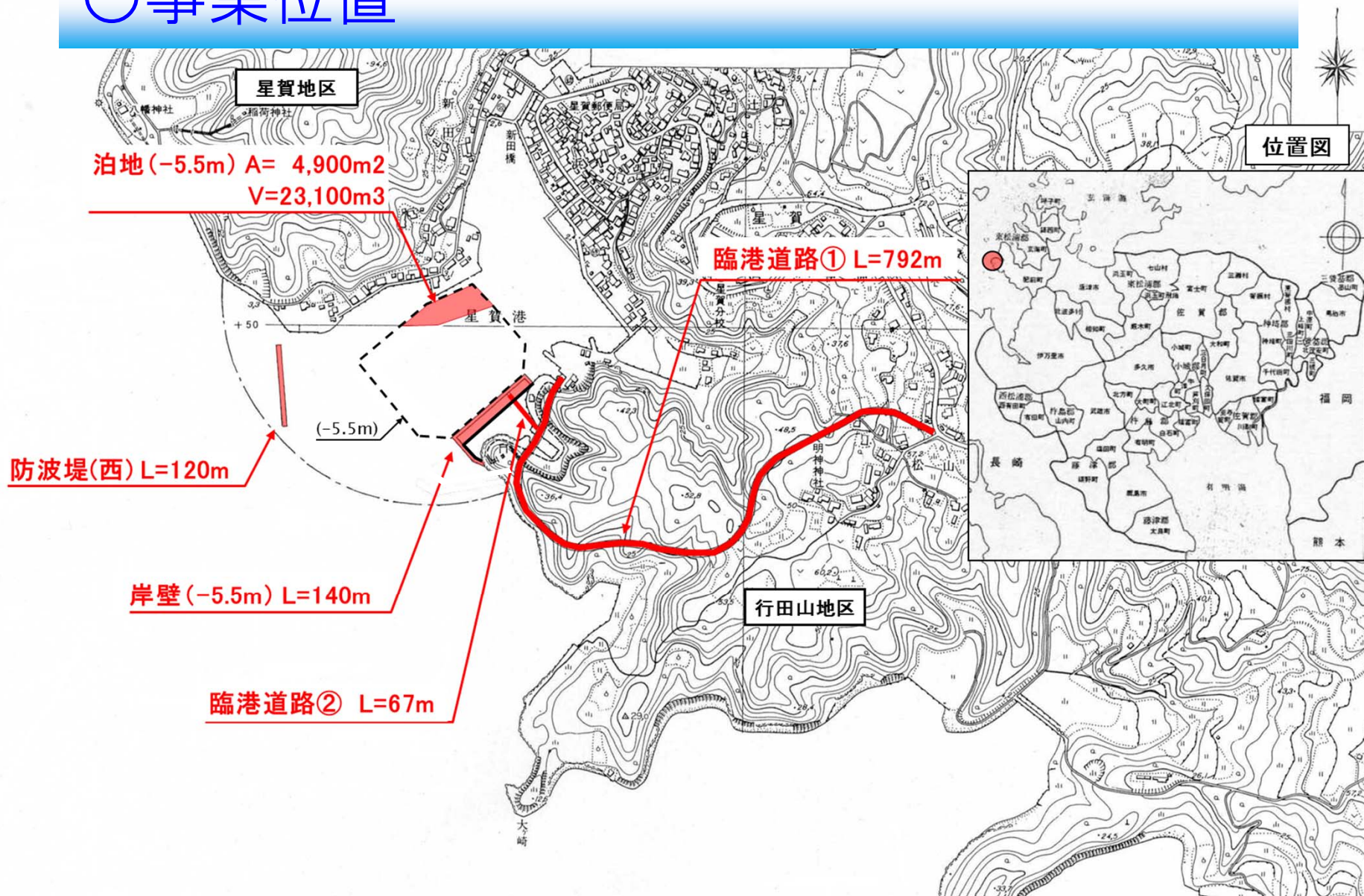
・泊地 (−5.5m)  $A = 4,900\text{m}^2$   $V = 23,100\text{m}^3$

・防波堤 (西)  $L = 120\text{m}$

・臨港道路  $L = 859\text{m}$



# ○事業位置





# ○事業位置





# ○事業効果（波及効果）の発現状況

## 【大型船と漁船の輻輳解消】

岸壁（-5.5m）が整備され、大型貨物船係留施設を湾奥部から港口部の新設岸壁に変更したことにより、湾奥部での大型貨物船と漁船の輻輳が解消し、航行安全性が向上した。

整備前の状況



整備後の状況



地方港湾改修事業（星賀港星賀地区・行田山地区）

## ○事業効果（波及効果）の発現状況

### 【港内の静穏の確保】

防波堤が整備されたことにより、異常波浪時の高波抑制効果で港内の静穏が確保され、船舶の航行安全性及び係留船舶の安全性の向上が図られた。

整備前の状況



整備後の状況



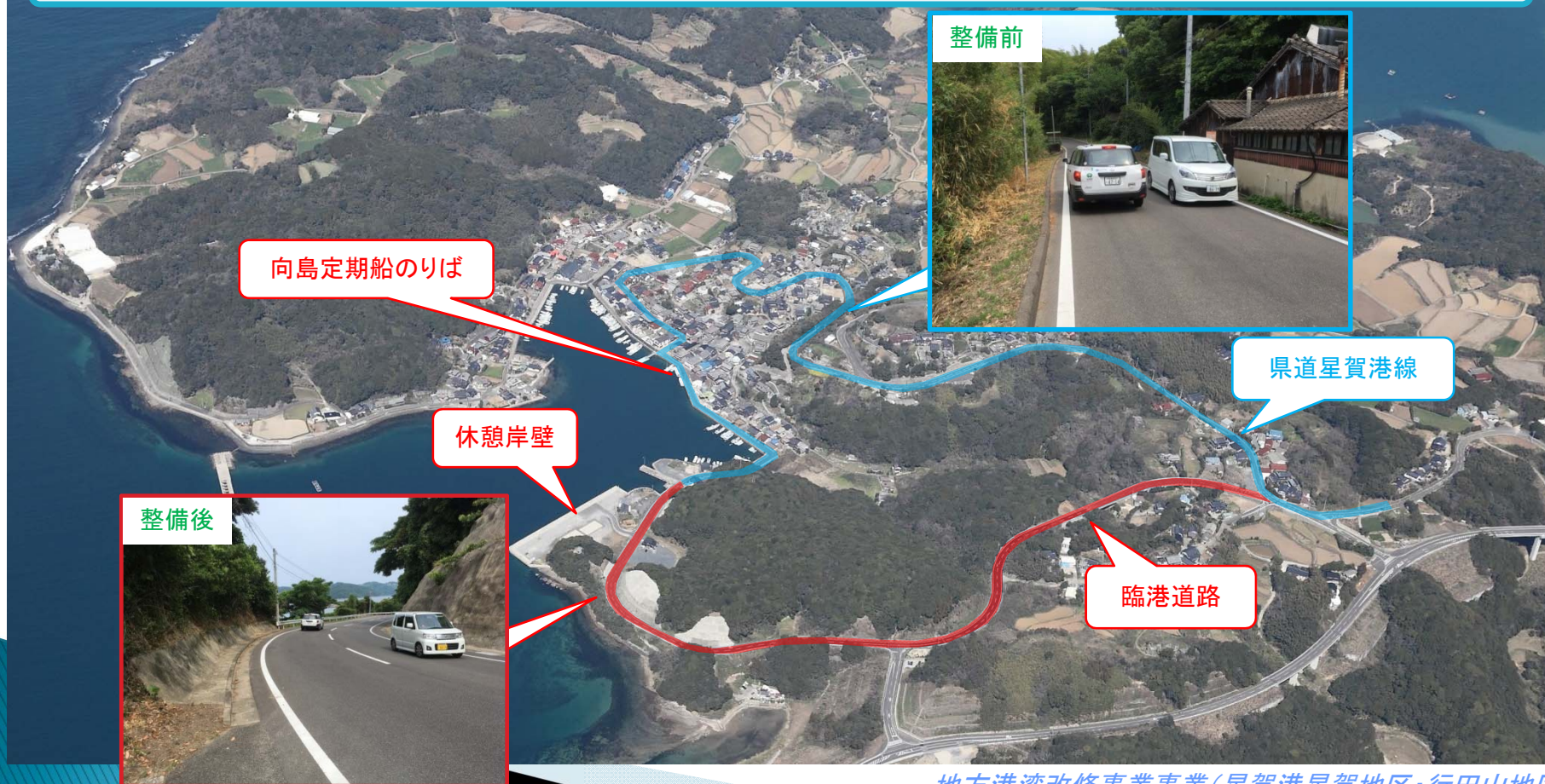
地方港湾改修事業事業(星賀港星賀地区・行田山地区)



# ○事業効果（波及効果）の発現状況

## 【星賀港利用車両の交通の円滑化】

臨港道路が整備され生活道路と港湾利用者を分離した事により、星賀港利用車両の交通の円滑化が図られたとともに、地域住民の生活環境が改善された。





## ○施設の維持管理状況

- 港湾施設の管理は、県（唐津土木事務所）が行っている。
- 施設を長期にわたって有効活用するため、維持管理計画を策定し、計画的かつ適切な維持管理に努めている。
- 維持管理状況に起因する問題は生じていない。



岸壁(-5.5m)



防波堤



臨港道路

## ○地域住民等県民の意見

○岸壁が整備されたことで、港内で大型船舶と漁船が接近することがなくなり、漁船が安心して通行できるようになった。

○防波堤が整備されたことで、以前に比べると台風などの波浪時に港内の波が穏やかになったので、漁船を安心して係留できるようになった。

○臨港道路の整備により、生活道路の交通量が減少し、生活環境が改善された。

## ○改善措置の必要性

○事業目的が効果が適切に発揮しており、現在のところ改善すべき点はない。